

令和 4 年 4 月 28 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13601

研究課題名（和文）17世紀イングランド、ドイツにおけるネーション概念

研究課題名（英文）concepts of a nation in the Seventeenth century in England and Germany

研究代表者

小島 望（KOJIMA, NOZOMU）

明治大学・政治経済学部・助教

研究者番号：10838171

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、特に17世紀イングランドにおけるネーション概念のあり様を定量的に分析する方法を軸としながら、近代以前のネーション概念を手がかりとしながらナショナリズムの存否を近代以前に問う上での方法論やケーススタディを行った。具体的には、近世における定期刊行物に見られるネーション概念やその隣接諸概念との間の数的関係性や、それを踏まえてナショナリズムの存在に迫る上での留意点などを明らかにした。また、この時期の定期刊行物におけるネーション概念の具体的なあり様の解明にも本研究は貢献するものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの研究において、ネーション概念を切り口としながらナショナリズムの研究を検証する手法は、一般的とは言い難く、またそれを定量的に分析することはこれまでの研究においては見られなかった。本研究では、こうした点を念頭に置いて、17世紀の特にイングランドに力点を置きつつ、ネーション概念と定量分析を組み合わせたアプローチを提案することができた。こうした手法は、異なる時代の他の地域・国を対象としても、ナショナリズム形成過程を解き明かすことに貢献すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I have conducted a methodology and case study in questioning the existence or non-existence of nationalism before the modern era, using the pre-modern concept of nations as a clue, with a particular focus on methods for quantitatively analyzing the state of the concept of nations in 17th-century England. Specifically, we clarified the numerical relationships between the concept of nation and its adjacent concepts in periodicals of the early modern period, and the points to keep in mind in approaching the existence of nationalism based on these relationships. This study also contributes to the clarification of the specific nature of the concept of nation in periodicals of this period.

研究分野：ナショナリズム

キーワード：ネーション概念 ナショナリズム 近世 ナショナリズム起源論

様 式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

これまでにネイション概念を手がかりとした近代以前のナショナリズムの存在可能性を研究しており、その過程において定量分析の導入の必要性、国家的凝集性に大きな懸隔があったとされるイングランドとドイツにおけるネイション概念の比較研究の必要性を感じた。

2. 研究の目的

17世紀イングランド、ドイツにおけるネイション概念の近代性を定量的に分析し、定性的かつネイション概念への注目を欠いた既存の研究潮流を相対化すること、両国の国家的凝集性の程度とネイション概念のあり様の関係性を解明することが研究の目的である。

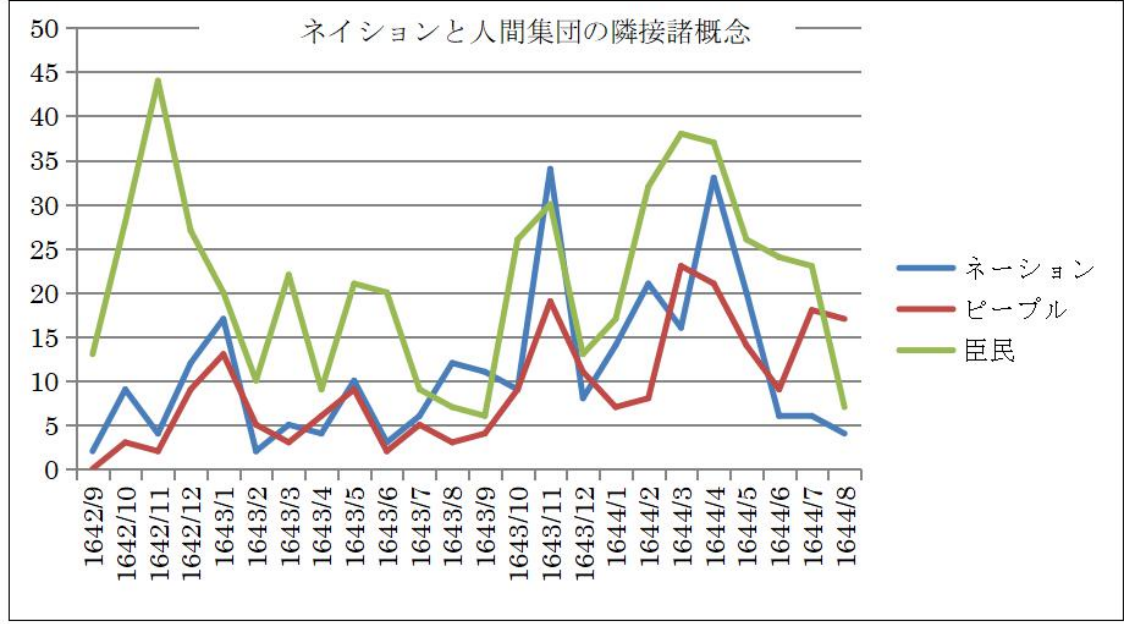
3. 研究の方法

本研究においては、17世紀イングランド、ドイツにおける定期刊行物におけるネイション概念を、その政治的権能（政治的意思決定を行うか否か／その名の下に政治的アクターを正当化するか否か）、指示対象の階層的広さ、民族的特殊性との関係との有無を基準として算定する。そこにかかる作業を通じて、ネイション概念が様々な次元において異なる位相にあった両国の懸隔を超えた共通性を示すのか、あるいは各々に固有のネイション概念の性格の存在が示されるのかを明らかにする。

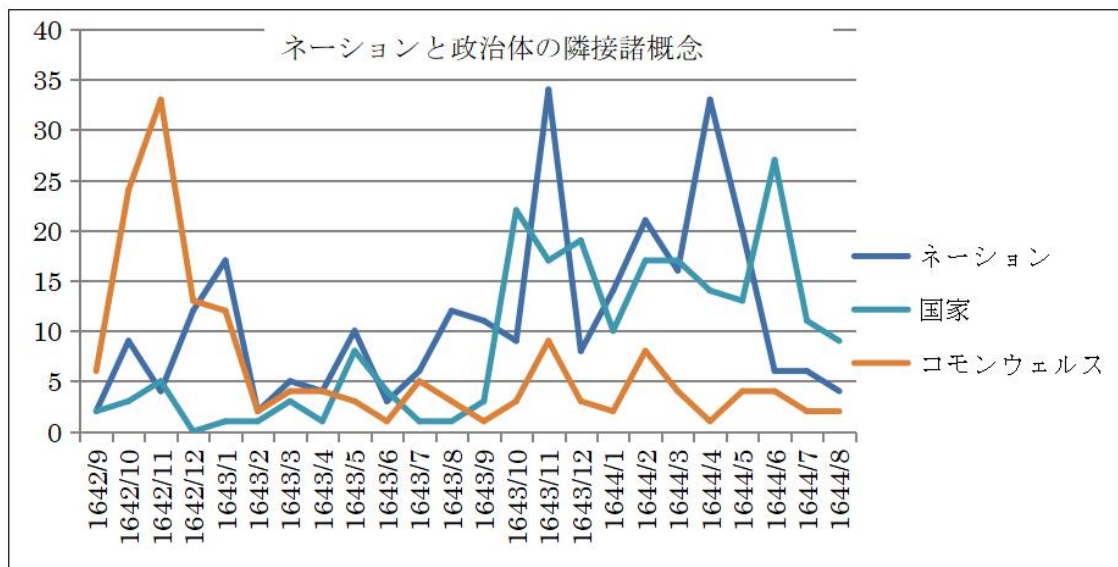
4. 研究成果

本研究においては、上記の研究の目的を十分に果たすことは出来なかった。とはいえ、研究の概要と関連するいくつかの研究結果を発表することができた。第一に、17世紀イングランドにおける、いわゆる第一次イングランド内戦（1642～1646）の前半期において、当時のイングランドにおいて刊行されていたニュースブックと呼ばれる定期刊行物を蒐集し、ネイション概念とその隣接諸概念の出現頻度を分析した。その結果、ネイションはピープルおよび王国[kingdom]と共起する傾向にあり、ネイションとピープル、ネイションと王国との間の相関関係は正の相関を示す。

ネイション	ピープル	臣民	王国	国家	コモンウェルス
268	220	509	2489	209	153



語彙の組み合わせ	相関係数
ネイションと臣民	0.46
ネイションとピープル	0.61



語彙の組み合わせ	相関係数
ネイションと国家	0.36
ネイションとコモンウェルス	
ネイションと王国	0.62

第二に、ナショナリズム研究においてネイションという集団のカテゴリの特徴として挙げられる、主権[sovereignty]が、現在のナショナリズム研究においていかなる意味を備えているのかを明らかにする研究も行った。この際、国際的なナショナリズム研究媒体である *Nations and Nationalism* 誌に掲載された約 530 の論文のうち、sovereignty という語とその前後に出現する語を検証した。その結果、ナショナリズム研究において、ネイションの備える主権は、基本的にはその名の下に活動する政治アクターに政治的正統性を付与する、政治的正統性の源泉としての性格が強い。他方で、ネイションの主権がネイションによる政治的能動性を意味する文脈で用いられる事例も散見されたが、後者は独立を問う住民投票のような例外的事象に留まることが明らかになった。

第三に、近代以前におけるナショナリズムの存在を立証する上でどのようにネイション概念に着目するべきかを論じた。既存のナショナリズム起源を巡る研究においては、史料概念ではなく分析概念としてのネイションに着目する傾向がある。そうした方法においては、各人が定義する「ネイション」、「ナショナリズム」同士が対立し、我田引水的に議論が進んでしまうという問題点がある。これに替えて史料概念としてのネイション概念に着目することで、個々の史的段階や当該の社会においてネイションがいかなるものとして理解されていたのか、そしてそれが近代におけるネイション概念とどのように類似し、どのように異なるのかを明らかにし得る。史料概念に依拠したこうした方法を採用することで、隣接諸概念との異同の抽出やネイション概念の史料中における出現頻度を手がかりとして、民族的特殊性と主権とを具備したネイションの存在を自明とする言説編成、すなわち世界観としてのナショナリズムに迫り得ること、その具体的方法を明らかにした。

上記の三成果は併せて、近代以前のネイション概念を手がかりに近代以前のナショナリズムの存否を論じる方法論を提示するものである。これに加えて、従来の研究において等閑視されてきた、17 世紀イングランド内戦に前後する時期の民衆向け定期刊行物におけるネイション概念とラディカリズムの接続関係を論じた。その結果、王党派の媒体におけるネイション概念においても、当時のイングランドにおけるナショナルな言説におけるラディカリズムの影響が見出されることが明らかとなった。

本研究において発表された研究成果は、ネイション概念を手がかりとしながら近代以前のナショナリズムを追究する上での重要な知見を提示するものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小島望	4. 巻 517-1
2. 論文標題 前近代的ネイション概念は近代主義を超えるか? —ナショナリズム起源論における概念的接近手法 —	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学報	6. 最初と最後の頁 81-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小島望
2. 発表標題 ナショナリズム研究におけるpopular sovereignty概念について ——Nations and Nationalismを手がかりに——
3. 学会等名 お茶の水政治研究会（日本政治学会分野別研究会「政策・制度研究会」）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小島望
2. 発表標題 「第一次内戦期イングランドにおけるネーション概念—統計的ネーション概念史研究の試み」
3. 学会等名 ソーシャル・コンピューテーション学会第11回研究例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小島 望、中島 浩貴、新谷 卓、清水 多吉、ティル・クナウト、鈴木 健雄、坂 堅太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 218
3. 書名 歴史のなかのラディカリズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------